サイディングボードの
高耐候性・簡易透明防水保護工法

セブンサイディングコート

施工要領書

2025年4月改訂版

Seven Chemical
株式会社 セブンケミカル

目次

1. サイディングコートの標準工程 3

2. 適応下地 3

3. 施工条件 3

4. 施工上の注意 4

5. 施工手順 4

6. 使用材料一覧 5

1. サイディングコートの標準工程

工　　程		使 用 材 料	希 釈 （重量%）	所要量 （kg/㎡）	工程時間 （H）	施 工 方 法
1	下塗り	水性サイディングコートシーラー	水道水 （0～3）	0.12～ 0.15	3～24	中毛ローラー
2	中塗り	水性サイディングコート	水道水 （0～5）	0.3～ 0.4	16 以上	細目砂骨ローラー
3	上塗り （1）	水性サイディングコートトップ	水道水 （0～5）	0.12～ 0.15	3～24	中毛ローラー
4	上塗り （2）	水性サイディングコートトップ	水道水 （0～5）	0.12～ 0.15	24～ 最終養生	中毛ローラー

2. 適応下地

窯業系サイディングボード

※難付着サイディングボードは別途ご相談ください

3. 施工条件

（1）外気温が 5℃以下及び 35℃以上の場合は施工を避ける。
（2）施工前から施工後にかけての乾燥硬化の過程で雨・結露・霧・雪・霜等が予想される場合は施工を避ける。
（3）強風の時は塗材の飛散被害・塗付けムラ等の支障をきたすため、十分風養生対策を行うか施工を避ける。
（4）花壇や擁壁など裏面からの水分供給が予想される部分への施工は避ける。
（5）材料は、風雨・直射日光を避け 5℃以上の冷暗所で保管する。
（6）シーリング材の上への施工は避ける。
（7）使用する材料について製品安全データシート（SDS）を事前に入手し、関連諸法令を厳守して施工を行う。
（8）労働安全規則等に定められている安全規則に基づき適切な装具を着用する。

4. 施工上の注意

施工前の下地の洗浄不足、塗膜内への異物の混入、気泡を巻き込んだままでの表層硬化、液溜まりなどにより、意匠性を損なってしまう恐れがあります。また、サイディングボードが「直張り工法」（透湿防水シート上に直接張り）の場合には、内壁側に介在した湿気が表側に伝わりやすいため、サイディングコートの施工はできません。「通気工法」であることをご確認ください。

※直張り工法の場合は、一般的にシーラー／トップ、またはトップ塗り工法での仕上げです。

（1）下地処理

① サイディングボードに破損・欠損や反り、またひび割れの程度が悪く補修が難しい場合には、あらかじめサイディングボードの張替えなど適切な補修をおこなう。
② シーリング材用プライマーやエポキシ注入材は紫外線により黄変するため表層に残らぬよう処理する。
③ ワックスや油脂などが表面に付着している場合は研磨紙ずり、およびシンナー拭き等によって除去する。
④ エフロレッセンス、塵埃、付着異物は洗剤等を用いて除去後、洗浄剤成分が残らないように高圧水洗などを行い、十分に乾燥させる。
⑤ カビや藻などの微生物が生じている場合はアルコール液等で殺菌処理および除去する。

5. 施工手順

（1） 下塗り

① 下地処理が十分行われていることを確認後、下塗り工程を行う。

② 中毛ウールローラー塗りにより、塗り残し・塗り継ぎムラの生じないように均一に所要量を塗り付ける。

③ 目地モルタル、タイル面の濡れ色が均一にならない部分は、乾燥後塗り増しし、仕上がりを均一にする。（下地、サイディングボードの柄・模様などの状態により異なる場合があります。）

（2） 中塗り（砂骨ローラー　細目塗り）

① 指触確認し、下塗りの乾燥後中塗りを開始する。

② 水性サイディングコートを 0～5%水希釈し、均一に混合する。混合方法は、気泡が混入しないよう撹拌棒などで静かに「の」の字を書くように撹拌する。

（3） 細目砂骨ローラーに水性サイディングコートをたっぷりと含ませ、気泡が混入しないように小面積ずつ配り塗り、均一に仕上げる。

※ 高温時の施工や塗継ぎ箇所で気泡混入による白濁する可能性があるため、施工時の下地の温度や塗重ねの時間差に気を付けて施工してください。

（4）上塗り（中毛ローラー塗り）

① 水性サイディングコートトップは 2 液型塗材のため、基剤および硬化剤をそれぞれ攪拌し均一の液体とする。その後、基剤 10:硬化剤 1 になるように計量し、十分に攪拌する。
② 施工環境に応じて、水性サイディングコートトップを「水道水」で 0～5%程度で希釈し、十分に攪拌する。
③ 艶消し材が沈降していることがあるため、混合前にハンドミキサーで十分攪拌し、塗棒、ヘラ等で缶のコーナー部の溜まりもキレイに落とし、良く混合する。
④ 中塗り材施工の翌日以降に乾燥硬化を確認してから上塗りを開始する。
⑤ 上塗り 1 回目を施工後、十分に乾燥してから 2 回目の施工を行う。（※1）
⑥ 仕上げ面は、十分乾燥硬化させるよう、24時間以上乾燥養生する。（※2）
⑦ 透明仕上げの為、塗り重ね回数による光沢の差異が生じる可能性があるため、目地部分で見切りながら塗るなどして、塗継ぎの際にラップによる光沢に違いの出ないよう施工を行う。

※1 トップコート完全硬化前に降雨があると完全硬化前の塗膜に水分が移行してしまい白戻りすることがあります。これは硬化完了前に水分を含んでしまうことにより施工前の乳白色の状態に戻ってしまう現象です。塗膜性能上の問題は無く、完全硬化されることで白戻り現象することはなくなります。

※2 昼夜の寒暖差が大きい日や高湿度、結露が発生しやすい時期はブラッシングが起きることがあります。施工時の気象条件にはご注意ください。

6. 使用材料一覧

工程	製　品　名	容 量	荷 姿	備　考
下塗り	1 液水性ナノカチオン 水性サイディングコートシーラー	15kg 4kg	石油缶	
中塗り	1 液水性アクリルシリコン樹脂 水性サイディングコート	14kg 4kg	石油缶	
上塗り	水性2液型アクリルシリコン樹脂 水性サイディングコートトップ	11kg セット 3.3kg セット	石油缶	基剤：硬化剤 10:1

株式会社 セブンケミカル

東京都港区芝公園 2-4-1 芝パーク A 館 12F

TEL 03(6809)2597　FAX 03(6809)2598

https://www.seven-chemical.co.jp